

2014年

新入生にすすめる本

日本赤十字九州国際看護大学

教員によるブックガイド

本学の先生方が新入生の皆さんに薦める図書のリストです。
古典から新刊まで、知的な刺激に満ちた本が紹介されています。

*本学のホームページ(<http://www.jrckicn.ac.jp/>)にも掲載しています。

教員名	書名	編著者名	コメント
学長 浦田 喜久子	武士道	新渡戸稲造/著: 矢内原忠雄/訳	本書は、1889年(明治32年)アメリカ滞在中の新渡戸稲造が、日本の道徳価値について海外の人々に知らせるために著したものである。日本でも翌年翻訳が出版され、その後、英語以外の多くの言語にも翻訳された。日本の長い封建制度の時代に培われた武士道が、日本人全般の日常に生きる信条となって実践されていることを、ヨーロッパの歴史、宗教、文学から類例を引いて説明している。やや難解なところもあるかもしれないが、今も日本人の中に生きている道徳観を改めて意識すべく、是非挑戦していただきたい。
	水神	帚木蓬生	江戸時代、久留米藩でのお話。当時の農民は、筑後川の氾濫に悩まされる一方、田を潤す水路がないため、毎日毎日手桶で水を汲んで畑に流すという非効率な仕事を余儀なくされていた。年貢が収められない年もある。そこで、ある一人の庄屋が、水路を作るべく立ち上がった。自分の財産も命も懸けて、藩を動かし、関係する庄屋や村を動かし、行動する庄屋の姿には深い感動を覚える。郷土の人々の姿を知ってほしい。作者も福岡県出身、精神科医である。
	狐笛のかなた	上橋菜穂子	オーストラリアの先住民族アボリジニーの精神性、霊性を醸し出すようなファンタジーで、その文章は、風のささやきや湯気の立ったお料理の味と匂いが今にも感じ取れそうな、繊細な味わいにあふれている。ラストでは、なんとも暖かい涙がじわりと出てくること請け合いです。著者の上橋菜穂子氏は、アボリジニー研究を行っている大学教授で、数々の児童文学賞を受けており、本書のほかに、痛快女剣士の活躍を描いた「守り人」シリーズなども、お勧め。



教員名	書名	編著者名	コメント
石橋 通江	カラシニコフ	松本仁一	カラシニコフ(AK47)、開発者の名前をついた小銃は少年兵も使用でき、紛争地で使用されている。昨年12月に亡くなったカラシニコフ氏は、自分が設計した小銃で多数の人々が命を落としたことを悔やみ「心の痛みは耐え難い」と告白していた。本書は、AK47の運用場面をルポし、生前のカラシニコフ氏とのインタビューも紹介している。一つの銃が世界に及ぼす影響とは、平和教育の意味とは…考えさせられる一冊です。
	生き残るということ：えひめ丸沈没事故とトラウマケア	前田正治、加藤寛	2001年2月、ハワイ沖で米原潜が日本の水産高校実習船に衝突し、4名の高校生、2名の教師、3名の乗組員が亡くなった。本書では、事故の様相や、生き残った人々のトラウマから回復と成長の過程を、精神的援助の実際とともに記されている。PTSDという言葉に絶望感を抱くかもしれない。危機の体験から恩恵を受けるPosttraumatic growth(PTG)という考え方を知り、生きる力の強さを感じてほしい。
	風に立つライオン	さだまさし	アフリカの紛争地で、家族を失い日本人医師に助けられた少年。日本人医師は、心閉ざしていた少年との距離を少しずつ縮めていく。少年は、日本人医師にあこがれ、医者をめざし、数年後被災地石巻で医療活動に参加していた。小説は、ケニアに赴いた日本人医師を知る周囲の人の語りによって展開する。紛争、震災の厳しい状況の中で、命のバトンが受け継がれていく。国際での活躍を目指す人には是非読んでいただきたい。
岡村 純	論理的に考え、書く力	芳沢光雄	数学・数学教育者として1万3千人もの大学生を指導してきた芳沢光雄氏の『論理的に考え、書く力』(光文社新書、2013)は、暗記偏重となってしまう中高教育・大学入試に警鐘を鳴らした書であり、高校時代の学習方法・態度を振り返り、大学生としての学習態度・姿勢を身につけるために必読である。
	脳を創る読書：なぜ「紙の本」が人にとって必要なのか	酒井邦嘉	日本における言語脳科学の第一人者、酒井邦嘉氏の『脳を創る読書 なぜ「紙の本」が人にとって必要なのか』(実業之日本社、2011)は、「紙の本」を読書することが人間の脳の発達・進化にどうして必要なのか、を解き明かした書である。インターネットがすべてだと信じている学生はまず読んでほしい。
	微生物の狩人	ポール・ド・クライフ/ 著：秋元寿恵夫/訳	筆者が少年時代に愛読した偕成社版の完訳本である。細菌学の黎明期において、伝染病の原因をめぐるパスツールとコッホの学問的戦いに手に汗握る臨場感がある。看護職をめざす者の教養の書として、ぜひ読んでほしい。
小林 裕美	宇宙が始まる前には何があったのか?	ローレンス・クラウス/ 著：青木薫/訳	著者のローレンス・クラウスは、長年第一線で活躍してきた宇宙物理学者である。物理学の常識を覆す説を次々に提唱し、宇宙誕生や生命の起源について記している。宇宙や生命の根源に触れることで、普段と異なる思考回路となり、日々の小さな悩みから解放された気分となるだろう。
	パラダイムとは何か：クーンの科学史革命	野家啓一	「パラダイム」という言葉の生みの親、トーマス・クーンは、科学史を考察し、1962年『科学革命の構造』を出版した。クーンの新概念を知るための解説本ではあるが、この本から読み始めると興味が湧き、科学史を学ぶ導入となるのではないかと思う。
	沈まぬ太陽	山崎豊子	映画化されたが、個人の尊厳や生命までも疎かにした日本の企業の体質や裏側を描いている。主人公は、労働組合で職場環境の改善に奔走した結果、長期間海外勤務を命じられる。赴任した中東やアフリカでの生活を描いた箇所が、私には非常に印象深く、昨年亡くなった著者は、いったいどれほどの取材を重ねたのだろうかと思わされる。
鈴木 清史	装いの人類学	鈴木清史、山本誠	「衣」「装い」という日常的な事物をめぐる、どのような議論ができるのかを感じる事ができる。また、「文化」という普段何気なく使われている用語が、実は深遠な意味を持つものであることもわかる。出版年が古いのが弱点。
	人はなぜ逃げおくれるのか：災害の心理学	広瀬弘忠	2011.3.11.に発生した大災害では、多くの人びとが、最初の地震を過小評価した。そのために途方もない規模の人的な損害を被った。人はなぜ逃げないのか？本書は、社会心理学的側面から、その疑問を解き明かしている。
	かくれた次元	エドワード・ホール	「空間」が、人間の思考や行動にどのような影響を与えているのかを考察した古典的名著である。将来多様な人々との関係の中で専門職者と働くことを望む人々には有益な1冊であろう。

教員名	書名	編著者名	コメント
高橋 清美	日本でいちばん大切にしたい会社<3>	坂本光司	本著は、人ととことん大切に経営を、ぶれずに実行している企業を紹介している。企業関係者が真っ先に大切にしなければいけない人とは「社員とその家族」。業績重視・成長重視・シェア重視・ランキング重視ではなく人間尊重の経営がぶれない利益を生産する、これは素晴らしい言葉だと思った。
	人生に悩んだら「日本史」に聞こう：幸せの種は歴史の中にある	ひすいこたろう、白駒妃登美	「もうダメだ」を乗り越えた20人！という書籍の帯に惹かれて購入。小学生のころに伊能忠敬はすごい人だと感心したが、この本では、伊能は日本全国を完璧に測量するために、同じ歩幅（一歩が69センチ、左足右足で138センチ）で歩く訓練をしたとのこと。その執念に感動した。
	啓祐、君を忘れない：いじめ自殺の根絶を求めて	森順二、森美加	2006年10月11日、福岡県筑前町で「いじめられていきたくない」という遺書を残して自殺した、森啓祐君のご両親の手記。読み進めることがつらかったが、このようなことが二度とあってはならない、事実を忘れてはいけないと思った。
因 京子	御宿かわせみ	平岩弓枝	希望に満ちて入学した人たちにこんなことを言うのはどうかと思うが、人生は、面白いことや楽しいことは少しだけで、退屈なこと、苦しいこと、理不尽なことのほうが断然多い。くさくさするとき、どこかへ飛んでいってしまったらと思うとき、上の3シリーズのどれかを手に取ると、たいがいのことは忘れて読むことに没頭できる。そして、読んだ後、このつまらない自分の人生、このうんざりする世の中というものに対する、なつかしい気持ち、少し、湧いてくる。江戸時代を舞台にした「ミステリー小説」ではあるが、今生きている人間についての物語なのである。いずれも当代一流の書き手によるものだけあって、筋立てが面白いだけでなく、人間の心に対する確かな観察と、私たちはこのようにあることができるはずだという希望が、江戸時代に設定されているからこそ生み出せる独特のリアリティをもって心に染み入ってくる。「つまんな〜い」と思うとき、読んでみてください
	髪結い伊三次捕物余話	宇江佐真理	
	三島屋変調百物語事始：おそろし 三島屋変調百物語事続：あんじゅう	宮部みゆき	
寺門 とも子	ペコロスの母に会いに行く	岡野雄一	ふらりと立ち寄った本屋さんの入り口にこの本が積んであり、手に取って立ち読み、そのまま購入して一気に読みました。漫画家である著者が認知症の母、家族、歴史、など漫画とコラムで書いてあります。長崎弁が楽しく、自分の母ともかぶるところもあり切なく、疲れた頭をいやしてくれる一冊です。
	沈黙の春	レイチェル・カーソン	最初が、とても惹きつける書き出しで始まっています。中を読んでいくと衝撃を受ける内容が広がっていき、一気に読み進めてしまう本だと思います。私たちの日常に環境問題が関わっていることを実感させられる本です。1960年代に生物学者としてこの本を書いたレイチェル・カーソンはすごいと思いました。
	日赤の創始者 佐野常民	吉川龍子	この本は日本赤十字短期大学で司書をされていた吉川龍子さんが、日赤の創始者佐野常民侯がどのようにして日本赤十字社(博愛社)を創設するに至ったかを、歴史的な交換文書などを丁寧に細やかに資料調査した結果に基づき書かれた歴史的な研究の集大成となっています。日赤の看護短大時代の司書ならではの著書で興味深い本です。
姫野 稔子	くじけないで	柴田トヨ	難しい言葉は使わず読みやすい詩集です。100歳をこえた著者の優しさにあふれ、時には佻しさを感じることもできるものです。エリクソンが唱えた英知・統合という発達段階にいる著者にしか表すことのできない説得力のようなものがあります。心が満たされないうちやほっこり気分になりたいときに読んでみてください。
	おしっこの放物線	村瀬孝生	福岡にある宅老所「第二よりあい」に勤務する著者が宅老所で出会った老人とのエピソードが記されています。文字は小さいですが、内容はとてもわかりやすく個性豊かに構築された認知症高齢者の世界に引き込まれていきます。
	脳のなかの幽霊	V.S.ラマチャンドラン、サンドラ・ブレイクスリー/著：山下篤子/訳	医師である著者が脳の不思議な働き、錯覚についてわかりやすく説明した本です。特に切断した腕がまだあるように感じ、その手に痛みを感じたりする「幻肢痛」を鏡のトリックで改善した症例は非常に興味深く、人間の脳は本当に面白いと感じると思います。脳科学に興味があわく一冊です。
本田 多美枝	看板のない居酒屋：「繁盛店づくり」は「人づくり」	岡村佳明	著者は、「居酒屋づくりは人づくりにあり」「居酒屋は、お腹だけでなく心も満足させる店」をモットーに、お客様本位のスタッフ育成に力をそそぎ、口コミだけで繁盛店を作り上げた。この本に書かれている「人づくり」は、医療、看護の世界にも結びつく元気になる内容になっている。
	英国シューマッハー校サティシュ先生の最高の人生をつくる授業	辻 信一	著者は学生たちを連れて、世界を代表する自然派の思想家の一人、サティシュ・クマール氏のもとを訪れる。そのときの様子を綴ったものが本書である。サティシュ先生と寝食をともにする学生たちが、みるみる心豊かに変わっていく姿を通して、サティシュ先生の持つ素晴らしい考えを実感できる。
	置かれた場所で咲きなさい	渡辺和子	著者は長きに亘り、教育の場に身を置き、多くの悩める人々を支えてきた。その深淵な思いを平易な言葉や事例を通して伝えている。著者は辛い経験を、ある時は克服し、ある時は受容し、それらとともに生きていくすべを獲得している。自分の前に立ちはだかっている困難に対し、どう対処したら構えることなく過ごせるかを教えてくれる本である。

教員名	書名	編著者名	コメント
増田 公香	武器としての決断思考	瀧本哲史	決断思考というタイトルにもかかわらず、おもにディベートを中心とした物事の思考方法について記述されている。その上で、大学の授業の位置づけ等についても見解を述べている。本書を読み、ぜひ“大学生”として大学の授業を受ける姿勢を考えてほしい。
	悩む力	姜 尚中	政治学者として有名な彼が、“生き方”について平易な文章でありながらも深い問いかけを行っている。私自身この本を読んで自分の人生を振り返る契機となった。若い皆さんには少々深刻なタイトルの題名かもしれないが、ぜひ読んでほしい。
	人間の基本	曾野綾子	筆者のアフリカやインド等での様々な活発な活動をもとに、また彼女の宗教的価値観を基軸に生き方の原点を問うている。“足場のない人は、人生を無駄にする”というキャッチフレーズである。あなたにとっての“足場”とは何なのか、問い直す1冊になるかと思う。
増成 直美	イレッサ薬害：判決で真実は明かされたのか	片平冽彦	イレッサ薬害の報道、判決、行政・製薬会社の対応等の真実を知り、医療のあり方を考えるきっかけにして欲しい。薬害防止に関しては、なによりも国民一人ひとりが本物の情報を見極め、行政や企業を監視していくことが求められる。その中で、患者に一番近く、長く接する看護師の役割は大きい。
	統計学が最強の学問である	西内 啓	高度情報社会において、今やデータの解析、活用なしには過ごせない状況にある。統計学のテキストとは違った視点から、統計学をみることができる。
	生と死のおきて：生命倫理の基本問題を考える	難波紘二	近時、臨床研究のデータ捏造事件が続発し、患者の生命・健康を害する新たな問題で賑わしい。そのような中、患者の生命について、医師の立場からの論理的な展開により、生命倫理上の問題が検討されている。また、研究者としての心得も随所に示されており、大変勉強になった。
柳井 圭子	生き延びるための思想	上野千鶴子	理不尽な暴力に遭っている「力」を持たない者たちに筆者は訴えます。「逃げよ、生き延びよ」と。そこに込められた教えとは……。新版には、東大最終講義も収録されています。
	いま、憲法は「時代遅れ」か：“主権”と“人権”のための弁明	樋口陽一	日本という国の一員として、今話題の「憲法」について考えてみましょう。考え、それを表現することが許されているうちに。なかでも『「この国のかたち」ということの意味』は必読です。
	元気が出る患者学	柳田邦男	看護師になるための学習、大変でしょう。でも、患者さん(また患者になる人たち)もどうすれば良い医療を受けることができるのか、学習していますよ。
山勢 善江	イラッとしたときやさしい気持ちになれる本	中井俊己	思い通りには進まない毎日の中で、私を励まし、内省させてくれる言葉がちりばめられた一冊です。中でも「天使を吸って、悪魔を吐き出す深呼吸」や、「笑顔が喜びを連れてくる」は、いつでも誰でもできる技です。
	科学者という仕事：独創性はどのように生まれるか	酒井邦嘉	本書でいう科学者とは、自然・人文・社会すべての科学を問わず、研究を通じ世に貢献する者をさしています。科学者にはどのような姿勢が求められるのか、先達の業績を例に挙げながら、易しく解説されています。
	不毛地帯	山崎豊子	第二次世界大戦後、日ソ中立条約を犯して侵攻してきたソ連軍に拘置され、重労働の刑(25年)を宣告されシベリアに送られる。そこで11年の抑留生活をおくることになる壹岐正の人生を描いた小説。これまでして人間は生きるのかと考えさせられます。
吉永 宗義	トイレの話をしよう：世界65億人が抱える大問題	ローズ・ジョージ/著 大沢章子/訳	トイレのない生活。想像できるだろうか？日本では大規模災害に見舞われて初めて、排泄物の処理がいかに重大であるか実感するにすぎない。その排泄物が世界でどのように処理され、それが解決されない場合にどのような問題を引き起こすか、ワクワクする楽しいエピソードを交えて解説してくれる。
	死なないでいる理由	鷲田清一	臨床哲学の実践者が、「死ぬことがわかっていて、それでも死なないでいる理由とは何か。」を、自分の存在といのち、家族について考えながら問い続けている。このようなことを日常的に考えておかなければ人間を相手にした仕事はできないだろう。
	学問の冒険	河合雅雄	日本における霊長類学(サル学)の第一人者が、生い立ちから人間への関心を持ち、サル学によって人間の存在の意味と今からの問題を明らかにする。そしてそのサル学を実践した個人史を通して学問する喜びへといざなってくれる。

教員名	書名	編著者名	コメント
五十嵐 清	ハル・ライシャワー	上坂冬子	最近、日本に着任されたケネディー駐日アメリカ大使のことが話題となりましたが、歴代駐日大使の中で日本人に一番親しみを持たれた大使は誰かと問われたら、多くの人は迷わず、それはエドウィン・ライシャワー大使と答えると思います。日本生まれの日本育ち、日本語が堪能で、奥さんが日本人(旧姓: 松方ハル)ということで、日本人に絶大な人気を誇ったライシャワー大使の妻、ハル夫人がこの本の主人公です。この著書はハル夫人が、一女性として素晴らしい生き方を全うされた物語です。日本の中にも、かつてこんな日本人女性がいたのかを私たちに教えてくれる貴重な本です。
	バーナード・リーチの 時計：青春の世界武者 修行	C・W・ニコル/著： 松田 銚/訳	テレビのコマーシャルに時々出演しているイギリス(ウエルズ)出身の作家、格闘家、探検家そして自然保護活動家など多彩な活躍をしているニコルさん(通称ニックさん)の青春記です。体格(大男)に似合わないニックさんの繊細さを文章の随所に感じる本です。アフリカ、カナダ、米国(アラスカ)を舞台に「生」との遭遇を体験した青年、ニックさんの物語です。
	日本の古代1：倭人の 登場	森浩一 編	NHK朝ドラ「あまちゃん」で有名になった海女のルーツといわれる宗像市鐘崎の海女(水人としての倭人)、中国安徽省で発見された「倭人字碑」などを通じて、「倭人」が「日本人」へと変化していく過程を、当時の国際情勢を背景に描いた学術書です。日本人のルーツに関心のある方、古代の国際舞台で活躍した私たちのご先祖を知りたい方、是非読んでみてください。
石山 さゆり	日本人には二種類いる	岩村暢子	著者は35項目にわたる「1960年の断層」を持って日本人を2種類に分けられると説明をしています。日本人の生育環境は1960年以前と以降では一変しました。「産院生まれの子供たち」「おばあちゃんの経験より『育児書』」「生まれた時からインスタント食品」などの項目からなり、いま生きている日本人を理解する際、大変興味深い視点であり納得しました。将来看護職につく人に読んでほしい一冊です。
	人生の基盤は妊娠中から3歳までに決まる：人生でいちばん大切な3歳までの育て方	白川嘉継	私が胎児の研究を進めていくうえで一番強く思っているのは「胎児はすでに立派な人間であり、母子の絆づくりは生まれてからでは遅すぎる」ということです。そのように考えていた矢先出版されたのが本書です。看護学生としても、これから子供を授かり、育てていく皆さんにぜひ読んでほしいお勧めの本です。著者は福岡県の小児科医です。
	生命を捉えなおす：生きている状態とは何か	清水 博	1978年初版され2009年に増補版が出版されました。生命を生物だけにとどまらず、細胞レベルから人間社会、組織まで様々なレベルでとらえ、「生きている状態は情報を生成し続ける」と著者は述べています。この本も私が研究をしているときに出会った本です。人間のはじまり(受精卵)においても情報を生成することに思いをはせました。
上村 朋子	レンタルチャイルド：神に弄ばれる貧しき子供たち	石井光太	話題の映画「遺体」の原作者としても知られる著者が大学卒業後に旅したインドで見た貧困の真実。物乞いのためのレンタルチャイルドと聞くと胸が痛い、悲惨な状況の中で暮らす人々が日常的に直面する問題を彼らと同じ目線で捉えているところがおもしろい。
	孤独死：被災地で考える人間の復興	額田 勲	阪神淡路大震災以降、「孤独死」、「孤立死」、「独居死」という形で、誰にも看取られずひっそりと消えていくのちが社会問題として浮上してきた。この書はそのいのちの記録である。今後一層の高齢化に伴い、「孤独死」は決して他人ごとではない。まずは、その特異的な死が発生する背景を知るところから始めよう。
	沈まぬ太陽3：御巣鷹山篇	山崎豊子	航空史上最大のジャンボ機墜落事故の関係者取材して小説的に再構築したものであるが、人為的災害の被災者遺族や救援者となった人々の悲痛な心の叫びや苦悩を窺い知ることができる。
大倉 美鶴	質が問われる時代の看護サービスマネジメント	江藤かをる	これからの時代、私たちが会おう患者および家族、また自分を含め共に働くスタッフは、さまざまなサービスに対する質を問い、さらに質の高いサービスを受けることを当然の権利として要求するであろう。しかし、医療や介護の現場は、日々の治療やケア、介護に追われ、質の高いサービスを十分に提供しているとは言い難い。ゆえに、サービスの質の在り方については、全国の医療及び介護施設で必ず検討しなければならない問題であると考えます。
	ヘルス・ケア・ワークを支える看護の人間工学	大河原千鶴子、酒井一博	今回、私が新入生の皆さんに3つの図書を選んだ理由は、学生の早いうちから、看護は医療だけでなく、環境を整えるサービスであること、患者及び家族、働くスタッフの利益を追求するサービスであることを実感し、質の高いサービスの在り方を常日頃から追求してもらいたいと思ったからである。自分の身内が施設に入ることを想像すると、これからの治療の水準は勿論、看護や介護のサービスは質が高いことを期待する。看護や介護のサービスの質とは何か、これらの図書がその考えの一助になることを願う。
	健康デザイン：健康をサポートする環境づくり	柳沢 忠、宮治 真	

教員名	書名	編著者名	コメント
小川 里美	I Am Malala	MALALA YOUSAFZAI	2013年、16歳の著者は「女子、子どもへの教育の重要性」を国連本部で力強く訴えました。彼女の力強いメッセージは全世界に配信され、多くの人々に感動を与えました。彼女の育った地域ではタリバンとの武力紛争が激化し、赤十字も人道支援に苦慮しています。教育の自由が当たり前の日本では考えられないような国・地域があることを知り、教育の重要性、学ぶことの意味や大切さを考えてほしいです。
	海賊とよばれた男	百田尚樹	昨年度、本屋大賞にも選ばれた作品です。敗戦から石油会社を立ち上げた(現出光興産)主人公のライフストーリーです。人としてのあり方、人材育成、組織管理、社会貢献等、考え学ばされることがたくさんあります。一気に読みましてしまうくらいおもしろい作品です。
	岩波 応用倫理学講義	中岡成文、他	生命、環境、情報、経済、性/愛、教育、問いについて、問題を投げかけ、考え、論理を組み立てる書です。興味のある分野から手にとってみてください。講義形式になっている部分もあり、意外と読みやすいシリーズです。様々な分野の人が書いているのも興味深くおもしろいです。
後藤 智子	下町ロケット	池井戸 潤	国産ロケットの打ち上げに欠かせない小さな部品を巡る巨大企業と町工場の攻防。かつてロケット開発の研究者で、今は町工場を経営する佃航平は製品開発技術者としての夢と誇りを貫いていく。一気に読み終えたとき、働くことや夢を持ち続けることの大切さを考えさせられていました。
	それでも人生にイエスと言う	V.E.フランクル/著：山田邦男、松田美佳/訳	ナチスのユダヤ人強制収容所から生還した精神医学者の実体験に基づく講演集です。極限状態を経験した人の「人生を肯定する」言葉の重みを感じます。読み終えて自分の人生を大切にしたいと清々しい気持ちになりました。作者の言葉をかみしめながらゆっくりと読みたい作品です。
	宮本武蔵	吉川英治	長編ですが、面白くてその世界に引き込まれること必至です。剣豪武蔵の成長の軌跡と生き様に感動し、時間を忘れて読みました。武蔵の「こうありたい」という思い、ある女性に対する一途で純粋な思い、そのことによって武蔵は多くの葛藤を抱えます。本当に強い人は優しい、そう思える作品です。
増山 純二	世界一やさしい問題解決の授業	渡辺健介	看護師であれば、だれもが必要とされる能力として、クリティカルシンキングがある。私たち看護師は、考える力、そして、問題を解決する力を意図的に養う必要がある。また、クリティカルシンキングは看護だけではなく、いろんな分野でも必要とされている。日本では、クリティカルシンキングの中核に位置しているのは、心理学系、論理学系、哲学系のクリティカルシンキングの文献が多い。そこから、専門分野に波及され、それぞれの分野でのクリティカルシンキングについて述べられている。
	3分でわかるロジカルシンキングの基本	大石哲之	今回は、看護の専門性を勉強する前に、クリティカルシンキングの基礎的な概念、また、ロジカルシンキングや問題解決手法について解説している本を3つ紹介する。
	グロービスMBAクリティカル・シンキング	グロービス経営大学院	
森山 ますみ	文明崩壊：滅亡と存続の命運を分けるもの	ジャレド・ダイヤモンド/著：楡井浩一/訳	著者は世界各地の文明崩壊を招く要因を「環境破壊、気候変動、近隣社会からの援助、その敵対的干渉、および社会がもつ問題対処能力」の5つを挙げ、世界各地で崩壊した文明、生き残っている文明の事例を解説している。今を生きる我々は文明崩壊した事例から何が学べるか。
	昨日までの世界：文明の源流と人類の未来	ジャレド・ダイヤモンド/著：倉骨 彰/訳	「今日の世界」=現代の工業社会は人間関係、領土問題、戦争、子育て、高齢者介護、健康など様々な課題を抱えている。本書では「昨日までの世界」=伝統的部族社会の叡智を辿り、現代の課題解決に生かせないかを模索している。本書を読み、現代の課題解決の答えが見いだせるか。
	国家はなぜ衰退するのか：権力・繁栄・貧困の起源	ダロン・アセモグル、ジェームズ・A・ロビンソン/著：鬼澤 忍/訳	世界になぜ豊かな国と貧しい国が存在するのか。本書で著者は経済発展の成否を左右する重要な要因は「政治経済制度」と主張し、世界各国の過去300年の歴史を「制度」という視点から解釈し論証している。本書を読み、日本を含む世界の国々の制度がどうあるべきかを考えて欲しい。
力武 由美	オリエンタリズム	E.W.サイード/著：今沢紀子/訳	E. サイードは「野蛮な非文明の東洋」VS「文明の西洋」の対立概念に差別的イデオロギーを喝破し、『オリエンタリズム』において東洋趣味の意の「オリエンタリズム」を「東洋を支配し再構成し威圧するための西洋の様式である」と再定義した。オリエンタリズムを引きずる今日の世界に、A. マリクの『郊外戦争は起こらないだろう』は次のような比喩で警鐘を鳴らす。世界中から移民や亡命者が流入する空間「郊外」は、グローバル化する地球の捌け口を失ったエネルギーが、まともな危機管理もなされぬままに充満している巨大な「原発」のようなところで、上手に統御すれば国中を照らし出すけれど、放置しておく「原爆」になりかねない、と。グローバル化により私たちは国際の中で相互依存の関係に在る現実を認識し、お互いが責任分担し、「人間らしさに徹して」生き抜いていこうと、緒方貞子著『共に生きるということ—be humane』は伝えている。
	La guerre des banlieues n'aura pas lieu (郊外戦争は起こらないだろう)	A. マリク	
	共に生きるということ：be humane	緒方貞子	

教員名	書名	編著者名	コメント
エレーラ カディジョ ルルデス ロサリオ	The Dark Child: The Autobiography of an African Boy (原書名: L' Enfant noir)	Laye Camara	西アフリカ西端に位置するギニア共和国出身作家が1954年にフランス語で書いた本。大家族に守られ、農村で幼少期を過ごしたのちに、フランスへと渡り専門学校に留学するまでの生活について書かれている。少年から青年期に移行する時の割礼の儀式や農民の神秘的な信仰が紹介されている。
	Okinawa's Post-War Health Recovery and Development	Sumiko Ogawa, Eugene Boostrom	戦後沖縄の保健医療の経験が描かれ、途上国への応用可能性が示唆される。4つの章で構成されているが、どこから読んでもよい。特に第2章では、現在国際医療保健分野で課題となっているMid-Level Practitionerの育成、離島医療の抱える問題が考察される。平易な英語であるため読みやすく、戦後日本の医療についても基本的なことが学べる。
	グローバル人間学の世界	中村安秀、河森正人	「グローバル人間学とは人間の自由と希望の実現を目標とする学である」。環境、人権、HIV・エイズ、開発と貧困、女性の健康、ジェンダーなど、分野を横断した科学的アプローチを必要とする課題として紹介されている。人間が生きて、移動をする、つながりの中で生きていく。興味のある章から読める。
阿部 オリエ	ここ：食卓から始まる生教育	内田美智子、佐藤剛史	とにかく、早く読んでほしい。急いで読んでほしい。読んだら、あなたたちの“生活”が変わると思うから…。生きるという意味で、何が大切かを考えさせられるから…。
	キラリ看護	川島みどり	看護を学ぶ人、中でも、赤十字の看護教育機関で看護を学ぶ人たちには、ぜひとも知っていたきたい、川島みどりという看護者を。
	クレーの絵本	パウル・クレー/絵：谷川俊太郎/詩	はっきり言って、クレーの絵は好みではない。でも、見るたびに、絵の表情が違って見える。谷川俊太郎の詩は、わからないようなわかるような、そんな詩が多いと思う。でも、とにかく心にも心に染み入る言葉が多い。そんな一冊です。気分によって、絵の表情も、詩のニュアンスも変化していくのがたまらない。何気ない時間にボ～ッと眺める、おすすめの本です。
稲留 由紀子	みみをすます	谷川俊太郎	ひらがなで書かれた長詩です。わかりやすい言葉で書かれていますが、深く心に染み入ってきます。特に、表題の「みみをすます」は、看護につながるものがあると思います。
	私は私らしい障害児の親でいい	児玉真美	海ちゃんという女の子のお母さんが書いたノンフィクションストーリーです。海ちゃんは障害を持っており、施設で暮らし、養護学校に通っています。海ちゃんのために母親としてがんばりますが、疲れてしまってもうがんばれないと思った時…自分自身の生き方も考えさせてくれる本です。
	悲しみに言葉を：喪失とトラウマの心理学	ジョン・H・ハーヴェイ	喪失研究についてわかりやすくまとめてある本です。さまざまな喪失を体験した人々の経験が、書かれており、自分自身が喪失を経験したときや、喪失を経験した人にどのように接したらよいのかも書かれています。少し難しいのですが、喪失とは、誰もが経験することです。ぜひ目を通してみてください。
小手川 良江	植物図鑑	有川 浩	植物図鑑は、そのタイトルが表しているように多くの植物が登場します。様々な植物を採取して調理して食べながら恋もするという物語です。皆さんが学ぶこの宗像の地は緑が多く、この本に登場する植物の多くを見ることができます。春には大学の周辺でつくし採りもできますよ。本を読んで、実際の植物を見て、時には味わって、宗像を五感で楽しんでいただきたいと思います。
	メタ認知的アプローチによる学ぶ技術	アルベルト・オリヴェリオ/著：川本英明/訳	看護職を目指すために、これから様々なことを学んでいきます。しかし暗記するだけでは、必要な学習ができません。この本は、学習する方法について様々な面から述べられており、皆さんの自律的な学びを促してくれると思います。
	置かれた場所で咲きなさい	渡辺和子	忙しい日々やちょっと疲れた時に読んで、爽やかな気持ちになる本でした。温かい一言に気持ちが楽になります。勉強や演習で疲れた時にこの本を読んで気持ちをリセットしてください。

教員名	書名	編著者名	コメント
濱元 淳子	外科の夜明け：防腐法-絶対死からの解放	J・トールワルド	麻酔が存在しなかった150年ほど前の時代、患者は苦痛のあまり絶叫しながら死んでいった。その後、吸入麻酔が開発されたが、術後の傷口の処置が不完全なため、患者は感染症をおこし、悪臭の中、死んでいった。この本には、麻酔手術が成功するまで、そして感染症を克服するまでの医師と患者の苦悩が生々しく描かれている。医師たちに次々に襲いかかる困難と、それらの克服。現代医学の先駆者たちの話。
	海と毒薬	遠藤周作	引越した家の近くにある医院へ、持病を治療しに通う男性。男性はやがて、その医院の医師が、かつての解剖実験事件に参加していた人物であることを知る。この本は、捕虜となった米兵が臨床実験の被験者として使用された事件を題材とした小説。遠藤周作はこの小説で、その手術に立ち会った医師や看護師の罪の意識に迫っている。どうして、その手術に参加することを断れなかったのか？関係者の心情が、ぞくぞくと心に迫る表現で語られている。
	グッドラック	アレックス・ロピラ、フェルナンド・トリアス・デ・ベス	この本は、世界50ヶ国19言語で出版され、読んだ者を成功に導く本である。読み進むうちに、今までの考えがすっかり変わってしまう小説。自分の人生は自分にしか作ることにはできないし、また、幸運というもの、自ら動かない限りは決して訪れない。地道に努力し、下ごしらえをすれば、必ず成功にたどりつくと気づかせてくれる。この本を読んでから、「今日すべきことは、今日中にする」を心に誓った。
原田 紀美枝	あなたが認知症になったから。あなたが認知症にならなかつたら。	越智須美子、越智俊二	映画「明日の記憶」のモデルになったご夫婦の人生の物語です。働き盛りのご主人が、若年性認知症を発症され、病氣と認識されるまでの苦悩や、病氣と診断され毎日を生き抜いてきた姿が描かれています。ご夫妻・ご家族の貴重な体験を通して看護がすべきことは何かを考えさせられました。
	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら	岩崎夏海	看護管理者仲間でもマネジメントを学ぶために読んだほうがいいと口コミで広がった本です。マネジメントは管理職がすればいいことと考えがちですが、一人一人の生活の中にも必要なことです。ぜひ、この本を読んでマネジメントを理解してみてください。
	心理操作で人は9割動く！	樺 且純	社会的な行動範囲が広がってくると、今まで関わったことがなかったような年齢層の人や自分とは異なる考えを持つ人と出会い戸惑うこともあるかもしれません。この本を読んでみて、まずは自分と向き合ってみてはいかがでしょうか。
北條 智子	理科系の作文技術	木下是雄	大学では、講義や実習での学びをレポートにまとめる機会が多い。論理的に思考し文章化することが求められるが、自らの考えを簡潔で読み手が理解できるように伝えることは非常に難しい。本書は、明快・簡潔な表現を追求し、目標を定め論理的に文章化する際の具体的な方法が述べられている。レポートを書く前に、是非熟読してほしい一冊である。
	アントン：命の重さ	エリザベート・ツェラー	本書は、第二次世界大戦中ナチス政権下にあったドイツで「生きるに値しない命」として障害のある子どもや精神に障害がある人を計画的に殺害した歴史上の出来事をもとに書かれ、ナチス政権に屈することなく、希望を持ち生き抜いた障害児アントンと家族の物語である。いじめや差別、虐待が常に存在する現代社会に生きる私たちに、命の重さとは何かを改めて考えるきっかけを与えてくれる一冊である。
	こころの病を生きる：統合失調症患者と精神科医師の往復書簡	佐野卓志、三好典彦	本書は、統合失調症患者と主治医である精神科医が往復書簡を交わすことで、互いに「こころの病気」について率直に語り合い、ともに成長していくプロセスを描いている。目に見えない病気と言われる精神疾患を理解する上で、まず患者の体験世界を知り寄り添うことが重要であると教えてくれる一冊である。
上野 満里	人を喜ばせるということ：だからサプライズがやめられない。	小山薫堂	ゆるキャラ「くまモン」の生みの親、小山薫堂さんは人を喜ばせることが大好きな方。人を喜ばせる、サプライズの神髄はどのようなものでしょう。なんでも楽しめる大人になるためのヒントがいっぱいあると思います。
	社会を動かす企画術	小山薫堂	
	モモ	ミヒヤエル・エンデ	
宇都宮 真由子	ホット・ゾーン	リチャード・プレストン/著：高見 浩/訳	致死率50～90%と言われるエボラ出血熱のウィルスがアメリカ・ワシントンに出現し、最高度機密保持態勢のもとに制圧される。ノンフィクションというから更に恐怖感が増す。感染症の怖さが身に沁みる一冊。
	りんごかもしれない	ヨシタケシンスケ	あなたの固定観念を壊してみませんか。5分で読めてあなたの考え方、ものの見方が変わるかもしれない本です。絵本なので、絵を見るだけでもおもしろい。いろんなりんごがあるものだ。
	最後の日まで毎日が贈り物：がんと共に生きた医師の18か月のメモワール	リー・リブセンタール/著：小西敦子/訳	がんと共に生きた医師の話。「今日は死ぬのにいい日だ」と思えるように生きた軌跡。毎日楽しく生きているか。そんなことを問いかけてくれる本である。

教員名	書名	編著者名	コメント
大塚 亜沙子	こころ	夏目漱石	私が「こころ」を初めて読んだのは高校生でした。それから、大学時代、社会人になってからと、何度、読み返したかわかりません。読むごとに心に響く作品です。語り手である先生は、手紙の中で「私は悲しんだ」とは表現せずに、「私は悲しい気分誘われることができた」と記していたことが印象的でした。奥にある「別の心」を見つめているのかもしれないと、毎回様々な想像にかきたてられる「こころ」を久しぶりに読みたいと思います。
	肩ごしの恋人	唯川 恵	私は恋愛小説に関して唯一、唯川さんの小説だけ読みます。恋愛小説というよりは、「女の小説」です。女の本音を包み隠さずに表現しています。恋愛模様は、略奪、離婚、不倫と荒れていますが、ドロドロとしておらず、むしろ爽やかに感じられます。それに対して男の感情は、単純で浅く、おまけ程度にしか扱われておらず、女をとことん追及しています。非常に読みやすく、誰にでもある女の本音に共感できるはずです。
	ふくわらい	西 加奈子	ふくわらいをするように目隠しと手さぐりで選んできた今までの人生を振り返ってみて、たとえそれが失敗してもいびつだったとしても、丸ごと笑って認めて愛してあげたらいいと思える、そんな小説です。人間であることはどういうことか、根源的なところを揺さぶられました。あなたももっと世界を愛せるようになるかもしれません。
金丸 多恵	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら	岩崎夏海	遊ぶときも大学で学ぶときも友達と多くのことを共有し成長していくと思います。人と一緒に何かを達成したいことが現れたら、あなたはどのようなことをしますか。ドラッカーについてだけでなく、ストーリーも面白く最後まで楽しく読める本だと思います。
	博士の愛した数式	小川洋子	人は他人のことすべて知ることはできません。人の考えている世界を想像しその思いに答えられるように努力をしたとしても、その答えは人の心にあり正解は分かりません。心の触れ合いを通して、人を想うことのせつなさを感じた本です。読んでいてとても心地よかったです。
	レ・ミゼラブル	ユゴー/著：坪井一、宮治弘之/訳	善悪について考えさせられました。また、信念は人を支えたと感じました。あなたは何を目標に何を大切に、大学4年を過ごしますか。楽しいことだけでなく大変なこともあると思います。信念を持ちその思いを大切に頑張ってください。
熊倉 佳奈	スマイルズの名著『品性論』	サミュエル・スマイルズ	新しいページをめくる時、この先どんなことが書いてあるのだろうとワクワクする瞬間が好きだ。だから一気に読み進めていくことがほとんどで、なかでも小説などは一度読むとストーリーが分かってしまうから、あまり、繰り返し読むタイプではなかったが、最近あることに気が付いた。
	犠牲(サクリファイス)：わが息子・脳死の11日	柳田邦男	本は購入後「すぐ読む」と、「少し時間をおいて再び読む」と、「更に期間をおいて再度読む」のとは、琴線に触れる部分や、そこから感じる風景や受けとるメッセージ、読んだ後に自分の中に残る香りが全く違うことだ。同じ本と勘違いしているのかと慌てて、作者と題名を確認するほどである。
	星の王子さま	サン＝テグジュペリ/作：内藤濯/訳	きっと、それまでに積み重ねてきた経験がそうさせているのだろう。また、今、目に留まった部分はその時の自分にとって必要な内容なのだろう。3冊すべては、最近読んだ本ではなく、学生時代に出会ったものである。本は、自己を成長させるのに大切なツールになると思っている。中学時代や高校時代に読んだ本を手にとり、自己の成長を測ってみるのも面白いのではないだろうか。
白坂 雅子	オレンジの壺	宮本 輝	極々平凡で、どこにでもいる女性の成長を描いた物語です。祖父の日記を見つけたことがきっかけとなり、彼女の人生が動き出します。本当に大切なものは何かをみつめることのできる一冊です。
	ノルウェイの森	村上春樹	村上春樹の作品の中で、一番、シンプルに描かれているのがこの作品だと思います。こんな風に人を愛することができれば幸せだろうと思います。10代最後の感性で読んでもらいたい一冊です。映画を見た人も、本の内容は若干違いますので、ぜひ読んでみてください。
	モモ	ミヒヤエル・エンデ/著：大島かおり/訳	ネバーエンディングストーリーで有名になった作家です。小さな少女が時間泥棒から盗まれた「時間」を年老いた亀と一緒に取り戻す物語です。時間はすべての人に等しく平等です。本当に大切な時間とは何か、考えてみてください。

教員名	書名	編著者名	コメント
苑田 裕樹	グッドラック	アレックス・ロビラ、フェルナンド・トリアス・デ・ベス	幸運は自分で作り上げるもの。幸運を導くためには自分自身で下ごしらえをする必要があるということ。何か悩んでいるときには忘れていた大切な言葉がこの本にはあります。
	クリティカルケア アドバンス看護実践	山勢博彰	高度な診療技術や侵襲的な処置が多く行われるクリティカルケアにおいて、看護師に求められる必須の技術と知識を、豊富な文献・根拠を基に解説。臨床で対応方法に議論のある「クリニカル・クエスチョン」に、エキスパートが根拠と臨床知をもって「myサジェスチョン」が提示されています。クリティカルケアのベストプラクティスがわかる一冊です。本学のクリティカルケア領域の先生方も執筆しています。
	バイツ診察法(原書名: Bates' guide to physical examination and history taking -9th Edition)	リン S. ピックリー、ピーター G. シラギ	医療の原点と呼ばれ、世界中で読み継がれてきた最高峰の指南書。上質なケアに必要な臨床技能がわかりやすく解説されています。最優先の書にして一生ものの価値があると思います。この本でフィジカルアセスメントを極めてみませんか？
田中 千晴	くすりの地図帳	伊賀立二、小瀧一、澤田康文	看護師新人時代にくすりのことを教わっていた医師に、わかりやすくオススメだとこの本をもらいました。当時何度も見て、今でも大切にしています。きっとくすりやくすりの作用に興味をわき「今自分が飲んだくすりはどのように体に作用しているのかな？」とつい思ってしまう1冊です。
	ケアマネしあわせ便利帳	日総研グループ	大学進学を機に、一人暮らしをする人も多いと思います。健康保険のこと、消費者被害のこと、知ってますか？本来介護保険に携わるケアマネジャー(介護支援専門員)という職業の業務の助けとなるための本ですが、介護保険関係だけでなく、社会生活をしていく上で知っていると便利な社会資源や法制度、公共料金のお得な割引制度などがぎっしり詰まった本です。困ったときに頼りになる1冊です！
	エンジェルフライト: 国際霊柩送還士	佐々涼子	日本人が海外で事件に巻き込まれ亡くなったというニュースで、「〇〇さんは無言の帰国を・・・」という言葉を聞きます。その度に、外国で亡くなった日本人や、逆に日本で亡くなった外国人は、どうやって自国へ帰っていくのか気になっていました。この本で「国際霊柩送還」という仕事があることを知りました。自国で最愛の人を待つ家族に、その人らしい姿で送ってあげたいという気持ちが、国際霊柩送還に携わるスタッフから強く強く伝わってくる本でした。
時枝 夏子	世界で一番いのちの短い国: シエラレオネの国境なき医師団	山本敏晴	私は兼ねてからの夢であった国際協力への思いを胸に、約12年前に本学に入学した。そんな私の夢を、現実のものにしたいと決意を新たにさせてくれた1冊。5歳になるまでに3分の1の子どもが死んでいく。そんな国の小さな命たちを守ろうと奮闘している日本人医師の記録である。
	ラッキーマン	マイケル・J・フォックス	Michael J. Foxといえばハリウッド映画、Back to the Futureシリーズで人気の俳優である。これは、人気絶頂の最中にパーキンソン病を患った彼の闘病記である。長きに亘る苦悩を経て「病気に乗っ取られるのではなく、自分が病気を所有する」という彼の決意に胸が震える。
	21番目のやさしさに: ダウン症のわたしから	岩本 綾	著者はダウン症をもつ女性である。大学を卒業して司書資格をとり、絵本の翻訳などを行ってきた彼女のこれまでを、彼女を支えてこられた方々への感謝の思いと共に、綴られている。「1本多い染色体にはやさしさの可能性がいっぱい詰まっている」という母親の言葉を支えに、果敢な挑戦を続ける彼女の生き方に感銘を受ける。
中平 紗貴子	トリセツ・カラダ: カラダ地図を描こう	海堂 尊/著; ヨシタ ケンスケ/絵	体の仕組みが簡単にまとめられている一冊です。これから看護を学ぶ上で、まず導入部分を知るために、分かりやすい言葉で書かれているので理解しやすいかと思います。
	獣の奏者	上橋菜穂子	母に勧められた本です。最初は本当に面白いの？と思っていましたが、読みだすと止まらず、4巻もあるので、一気に読んでしまいました。獣を操るといふ人にはない能力をもつ主人公エリンが、幼い時に辛い経験をし、様々な人と出会い、またその不思議な力をどのように使っていくのか。のめり込んでしまう一冊でした。読んだ後に知ったのですが、NHKでもアニメ化されているようです。
	マナーBOOK: 知りたいことがすぐわかる	高橋書店編集部	マナーに関する本は沢山世の中にあると思います。大学生となり、一人の大人としてこれから歩んでいく皆さんですが、社会の中で大人として成長していくために目を通してほしいと思いました。友達だけでなく、他者との話し方や接し方、目上の人に対する文章の書き方とは？是非自分から身に付けてほしいと思います。この本は一例で、自分が読みやすいものならどんな本でもいいかと思えます。本以外にも、普段の生活から身につけることも大事です。きっとあなたのこれからの役に立つと思えます。

教員名	書名	編著者名	コメント
橋爪 亜希	世界と恋するおしごと：国際協力のトビラ	山本敏晴	国際協力に携わる人々のキャリアプランをインタビュー形式でまとめたものです。国際協力には様々な道があり、いろいろな分野の人が関わっています。もっといろいろな分野の人と交流してみたいと思わせてくれる本でした。
	ミャンマー開国：その経済と金融	川村雄介	2013年の夏に、約10年ぶりにミャンマーを訪れることになり、ここ2-3年でめまぐるしく変化しているミャンマーについて勉強しようと思いこの本を手に取りました。これまでのミャンマーの歴史や日本との関係も含めて、経済発展の課題や今後の展望について書かれた本です。今回、訪問したのは公衆衛生の調査のためでしたが、やはり政治・経済について知ることは必要不可欠だということを実感しました。
	四つ話のクローバー	水野敬也	短編物語が四つ入っている本です。それぞれ、『成功』『欲望と感謝』『共感』『命』などをテーマに物語が展開されます。テーマは壮大ですが、物語自体が面白い設定の中で進むので楽しく読めました。「生きるとは」「幸せとは」何かを笑って考えさせられました。
福島 綾子	遺体：震災、津波の果てに	石井光太	あの時、多くの人が「生」と「死」について考え、奔走していたことを決して忘れてはいけません。(映画化もされていますので、ぜひ！)
	命のカルテ：アメリカのナースたちの声	エコー・ヘロン/著：中井京子/訳	ナースが日々、目撃し、関わりを持つこと—死、出生、極度の絶望、苦しみ、人生が一変するような外傷、最高の喜び、怒り、病氣—それらは、“普通”の人間ならたいはいは一生のうちに数回しか経験しない現象なのだ。ところが、ナースがごく一般的な勤務でこの多くを一時にはすべてを一扱う。(本文「はじめに」より抜粋) そんな、ナースの生の体験に触れてみてください。
	Story Seller	伊坂幸太郎、近藤史恵、有川浩、佐藤友哉、本多孝好、道尾秀介、米澤穂信	「面白いお話、売ります。」このキャッチフレーズに間違いなし！ おススメは有川浩の「ストーリー・セラー」 お気に入りの作家を探したり、新たな出会いを探してみたり、きっと読書が楽しくなります。
福本 優子	ケアの本質：生きることの意味	ミルトン・メイヤロフ/著：田村真、向野宣之/訳	私が大学1年生のときに出会った本です。看護師が対象をケアしようとするとき何が大切か、必要なことは何か、そもそも看護の対象である人間とは何か、について考える機会があり、その時に読んだ本です。「ケアの本質」は、看護師になってからも読み返し、専門職で在り続けることができるように振り返るときに使っていました。「狼に育てられた子」は、カマラとアマラの養育日記を読んでいくと、ヒトが人間になる過程を理解できるかと思います。わかりやすい言葉で書かれていますので、看護師を目指すみなさんにはぜひ一度読んでほしいと思います。
	狼に育てられた子：カマラとアマラの養育日記	J.A.L.シング/著：中野善達、清水知子/訳	
	レポート・論文の書き方入門	河野哲也	大学ではレポートを書く機会がたくさんあります。私が大学1年生のときに、初めてレポートを書くときに参考にした本です。どのような手順で書き進めるとよいか、具体的な書き方や注意点が示されています。レポートの書き方についてたくさん本がありますが、ぜひご自分にあった1冊を見つけておくことをお勧めします。